

2009年2月17日
(社)日本原子力産業協会

「原子力産業セミナー2010」の開催報告

(社)日本原子力産業協会は、原子力産業界の理解向上と、学生と企業の就職・採用活動の支援を目的に、合同企業説明会方式の「原子力産業セミナー2010」を開催した。

本セミナーは、2007年2月以来の3回目となるが、世界的な原子力カルネッサンスで原子力の再評価が進んだことに加え、金融不安による景気後退で学生の就職に対する危機意識が高まっていること、また、東芝、日立製作所、三菱電機や電力会社など知名度の高い企業が参加していることから、前回の学生参加数の倍以上の500名を超える理工系を中心とした学生が集まった。(添付-1会場の様子 参照)

日頃、原子力に接することの少ない学生が自らの意思で参加し、原子力産業界の動きや原子力技術の一端に触れ、原子力に興味を抱いてもらうことは、原子力産業界の人材確保や原子力に対する理解と信頼の醸成につながるものである。

1. 開催概要

- ・日時： 2008年12月13日(土) 10:00~17:00
- ・場所： 新宿エルタワー30階 サンスカイルーム
- ・参加企業・機関数： 45社 (全企業リストは添付-2参照)
- ・参加学生数 : 525名(102校)(参加学生所属大学一覧、添付-3参照)

2. 背景

かつて原子力産業協会が開催した学生との情報交換の場で、「原子力産業に関する情報が乏しい。たとえリクルート会社が主催する合同就職セミナーに参加しても、原子力事業部門を紹介している企業は殆ど無い。」という意見が出された。

日本では昨今少子化や理系離れが進み、原子力産業界では世界的な原子力カルネッサンスや保守の時代からリプレースの時代への備えとして、優秀な人材を確保し技術・技能を維持・継承することが重要な課題となっている。

当協会では、原子力および原子力産業の理解を深めること、学生と原子力産業界の橋渡しの手段の一つとして本セミナーを開催している。

3. セミナーの特徴

- (1) 参加企業・機関数の大幅増加(32社 45社):(* : 初参加)
(全企業リストは添付-2参照)
 - ・世界展開中の主要プラントメーカーの東芝*、日立製作所*、三菱電機が参加
 - ・電力会社の参加：東京電力、関西電力、中部電力、日本原子力発電、
J-POWER(電源開発)*
 - ・大手海外メーカーのアレバ(仏)、テネックス(露)の日本法人が参加
 - ・規制関係機関の原子力安全基盤機構、発電設備技術検査協会*が参加

- ・燃料メーカーの原子燃料工業、三菱原子燃料、グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンが出揃う
- ・研究機関の日本原子力研究開発機構、電力中央研究所が参加

(2) 参加学生の大幅増加(240名 525名):

- ・学生の参加者が多く、ブースの外まで学生があふれたり、配布資料が不足する場面も見られた。

<参加大学:102校>

- ・旧帝大系:北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学
- ・東京の有名私立大学:早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、青山学院大学、明治大学、立教大学、法政大学、
- ・原子力関連:東京工業大学、武蔵工業大学、東海大学、近畿大学、神戸大学

(3) 就職活動の早期化に伴い開催時期を毎回前倒し

- ・2月(第1回) 1月(第2回) 12月(第3回)

(4) 学生へのアイ・キャッチを重視したインパクトのあるポスターを使い、学生にアピール

右図参照



(5) 就職情報企業毎日コミュニケーションズの運営する就職情報サイト「マイナビ2010」に原子力産業特集を掲載し、参加企業・機関の事業や先輩を紹介するとともに、原子力産業の情報を提供 <http://job.mynavi.jp/conts/2010/tok/genshi/index.html>



- (6) 7学会等からの協賛：（初めての試み）
日本原子力学会、日本機械学会、電気学会、土木学会、日本建築学会、日本化学会、日本保健物理学会、国立高等専門学校機構が協賛
- (7) 色々な手段による学生への周知：
・Webメール、ダイレクト郵便はがき、大学就職課や教授からの紹介、学生間ネットワークの活用他色々な方法により学生へ周知
- (8) 内定率向上のための個別面談スペースや休憩のためのスペースとして活用できるコミュニケーションエリアを設置（初めての試み）
- (9) 放射線利用技術の紹介を目的に、先着 300名の学生へ放射線技術を応用した消臭剤やマスクをプレゼント（初めての試み）
- (10) 学生が参加企業から自分に適した企業を選ぶために、参加企業データブック（資本金、社員数、売上高、事業内容、企業PR）や会場案内、採用希望学科・職種別 MATRIX（個々の企業が採用を予定している学科や職種を記載した表）を配布
（参加企業データブック 添付 - 4 参照）
（会場案内 添付 - 5 参照）
（採用希望学科・職種別 MATRIX は初めての試み 添付 - 6 参照）
- (11) 学生の動線に配慮した企業配置、会場設営（会場案内 添付 - 5 参照）

4. 原子力技術の紹介・展示（提供）:

原子力産業の理解向上の一環で、原子力技術の紹介のための展示を実施

- ・ PWR 模型（関西原子力懇談会）
- ・ A B W R 模型（日立製作所）
- ・ PWR および B W R 燃料模型（原子燃料工業）
- ・ F B R 模型、霧箱 他（日本原子力研究開発機構）
- ・ 原子炉圧力容器模型、原子力発電や放射線に関するパネル 他（東京電力）
- ・ 放射線技術を応用した消臭剤、マスク、衣料 他（環境浄化研究所）
- ・ 燃料サイクルのポスター（原燃輸送）
- ・ 世界に貢献する日本の原子力技術パネル（日本原子力産業協会）

5. 参加学生のデータ及びアンケート結果

(1) セミナー当日は、全国 102 校（添付 - 2 参照）の大学等から 525 名の学生が参加した。前回（約 240 名）と比較すると 2 倍以上の学生が参加したことになる。学科としては、機電系学科から約 3 割の学生参加があった。また、女子学生も約 1 程度の参加があった。

（参加学生のデータ 添付 - 7 参照）

(2) 添付 - 8 ~ のグラフは、セミナー当日に実施した学生アンケートの結果である。学生へのセミナー周知には、マイナビ 2010 と学校掲示のポスターが大きく寄与していることがわかる。約 9 割の学生が、セミナーに参加して新たに参加企業に興味を持っており、「原子力産業」への理解が深まったと回答している。セミナーが、学生と企業の就職・採用活動の支援と原子力産業の理解促進の場として役立っていると言える。

（参加学生へのアンケート結果 添付 - 8 参照）

6. 参加企業へのアンケート結果：

各企業ブースへの学生訪問者数については、ほとんどの企業が前回は大きく上回った、もしくは、予測以上であったと回答している。(中には100人以上の学生が訪問した企業ブースもあった。)また、学生の関心・印象については、「熱心であった」「積極的であった」など前向きな意見が多数であり、数・質の両面において、企業のニーズに応えることができたと考えられる。

開催時期については、数社から若干早いのではとの指摘があったが、学生全体の就職活動の早期化を考慮すると、年内の開催は妥当ではないかと判断される。(学生の大多数が、開催時期について、ちょうど良い、もしくは、もっと早いほうが良いと回答している。)(添付 - 8 参照)

ポスターについては、学生への周知には効果的であったが、企業担当者には総じて不評であった。

7. マスメディアの取材：

NHK、電気新聞、東京新聞、電力時事通信、ナショナルPR、TBS、
インサイド原子力、原子力産業新聞、JAIF-TV

8. マスメディアへの掲載：

毎日新聞、産経新聞、フジサンケイビジネスアイ、電気新聞、
電力時事通信、東京新聞、インサイド原子力、日刊工業新聞、月刊エネルギー2月号
原子力産業新聞(添付 - 9 参照)、JAIF-TV(2009.1.15 放映)

・JAIF-TV : (<http://www.jaif.or.jp/ja/jaiftv/>)

世界的な原子力ルネッサンスの潮流のなか、日本でも原子力に注目が集まる現在、原産協会が開催した原子力産業セミナーには、電力会社、メーカー、研究機関などがブースを出展。

また、今回、はじめて東芝、日立、三菱などの国内主要メーカーも参加するなど、参加企業・団体数は、前回のおよそ1.5倍の45社が参加しました。今回で3回目となる原子力産業セミナーは、学生からの「原子力産業に関する情報が無い。原子力を知る機会が欲しい」との要望を受け、原子力産業界と学生をつなぎ、学生に働く場としての原子力産業の魅力を提示することを目的に、合同企業説明会方式で2007年より開催しています。・・・



以上

会場の様子：



原子力産業セミナー2010 出展企業一覧 (50音順)	
社名	業種
アトックス	プラント・エンジニアリング
AREVA Japan	ガス・エネルギー
伊藤忠テクノソリューションズ	情報処理
ウツエバルプサービス	設備工事
エンジニアリング開発	プラント・エンジニアリング
オー・シー・エル	プラント・エンジニアリング
関西電力	電力
グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン	非鉄金属
原子燃料工業	非鉄金属
原子力安全基盤機構	公益・特殊・独立行政法人
原子力発電環境整備機構	公益・特殊・独立行政法人
原電事業	プラント・エンジニアリング
原燃輸送	プラント・エンジニアリング
J-POWER(電源開発)	電力
新日本空調	設備工事
中部電力	電力
千代田テクノル	商社(その他製品)
テクノフレックス・トーラ	金属製品
テネックス・ジャパン	商社(化学)
テブコシステムズ	ソフトウェア
電力中央研究所	公益・特殊・独立行政法人
東京エネシス	設備工事
東京電力	電力
東京防災設備	設備工事
東芝	総合電機
東芝電力検査サービス	重電・産業用電気機器
東芝電力放射線テクノサービス	重電・産業用電気機器
東芝プラントシステム	プラント・エンジニアリング
東電環境エンジニアリング	サービス(その他)
東電工業	設備工事
東電設計	プラント・エンジニアリング
日本アイトープ協会	公益・特殊・独立行政法人
日本エヌ・ユー・エス(JANUS)	専門コンサルタント
日本原子力研究開発機構	公益・特殊・独立行政法人
日本原子力発電	電力
日本原燃	非鉄金属
日本メジフィジックス	薬品
発電設備技術検査協会	公益・特殊・独立行政法人
BWR運転訓練センター	サービス(その他)
日立製作所	総合電機
日立プラントテクノロジー	プラント・エンジニアリング
三菱原子燃料	非鉄金属
三菱電機	総合電機
三菱マテリアル	非鉄金属
若狭湾エネルギー研究センター	公益・特殊・独立行政法人

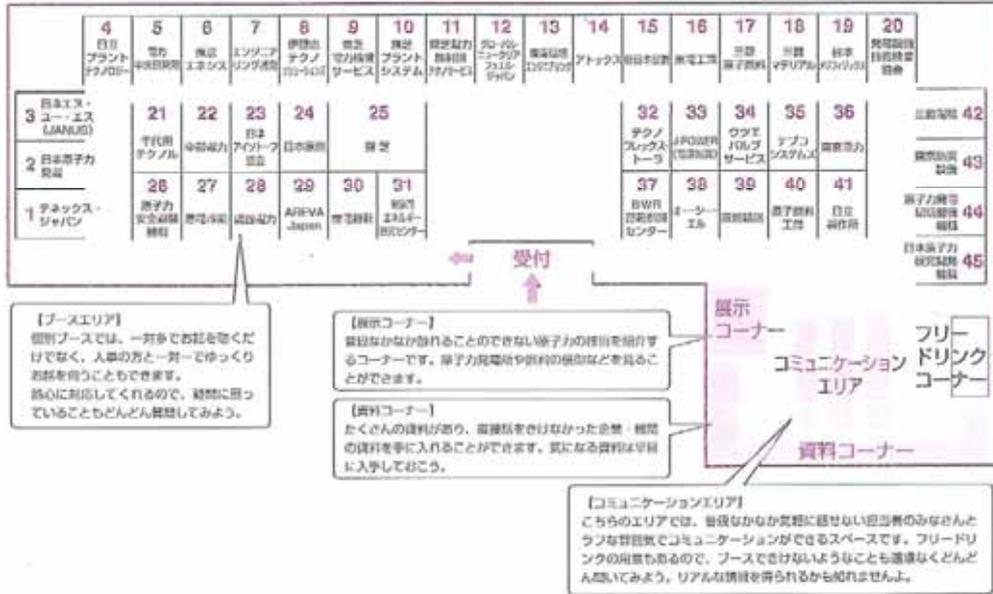
参加学生所属大学等一覧：102校 (50音順)

青山学院大学	首都大学東京	東北大学
石巻専修大学	上智大学	東洋英和女学院大学
茨城工業高等専門学校	湘南工科大学	東洋大学
茨城大学	昭和女子大学	獨協大学
岩崎学園専門学校	信州大学	富山県立大学
岩手大学	成城大学	長岡技術科学大学
桜美林大学	専修大学	名古屋大学
大阪市立大学	創価大学	南山大学
大阪大学	高崎経済大学	新潟大学
大妻女子大学	拓殖大学	日本工業大学
お茶の水大学	玉川大学	日本女子大学
小山工業高等専門学校	千葉工業大学	日本大学
学習院大学	千葉大学	八戸工業大学
神奈川工科大学	中央大学	弘前大学
神奈川大学	中部大学	福井工業大学
金沢工業大学	筑波大学	福井大学
金沢大学	帝京大学	法政大学
関西大学	電気通信大学	北陸先端科学技術大学院大学
関東学院大学	東海大学	北海道工業大学
九州大学	東京 IT 会計法律専門学校	北海道大学
京都大学	東京外国語大学	武蔵工業大学
近畿大学	東京学芸大学	室蘭工業大学
群馬大学	東京家政学院大学	明治大学
慶應義塾大学	東京経済大学	明星大学
工学院大学	東京工科大学	山形大学
神戸大学	東京工業大学	ヤマザキ動物専門学校
国際基督教大学	東京国際大学	山梨学院大学
国際理工専門学校	東京大学	山梨大学
駒沢大学	東京電機大学	横浜国立大学
埼玉工業大学	東京農業大学	横浜市立大学
埼玉大学	東京農工大学	立教女学院短期大学
静岡大学	東京理科大学	立教大学
芝浦工業大学	東邦大学	立命館大学
自由学園大学	東北学院大学	早稲田大学

会場案内

原子力産業セミナー 2010

会場案内図

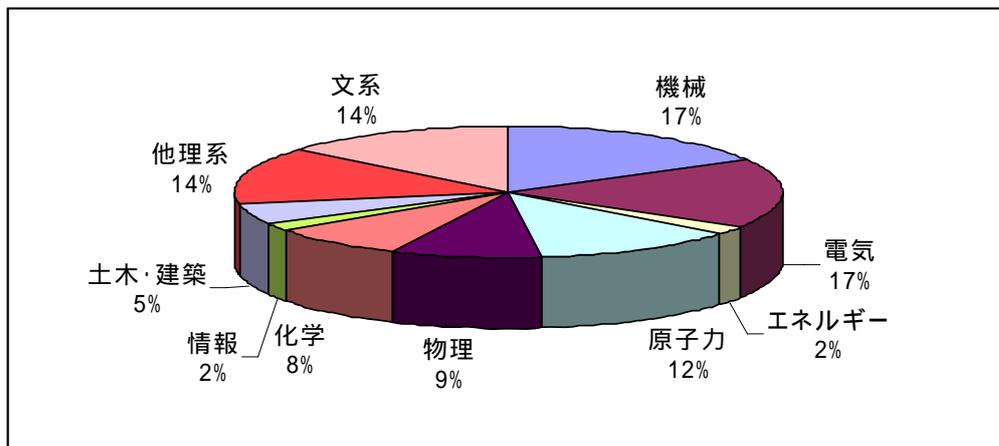


ブース番号	社名
ア 14	アトックス
29	AREVA Japan
8	伊藤忠テクノソリューションズ
34	ウツエビルサービス
7	エンジニアリング開発
カ 28	関西電力
12	グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
40	原子燃料工業
26	原子力安全基盤機構
44	原子力発電環境整備機構
27	原燃事業
39	原燃輸送
リ 33	J-POWER (電源開発)
15	新日本空調
ク 22	中部電力
21	千代田テクノ
32	テクノフレックス・トーラ
1	テネックス・ジャパン
35	テブコシステムズ
5	電力中央研究所
6	東京エネシス
36	東京電力

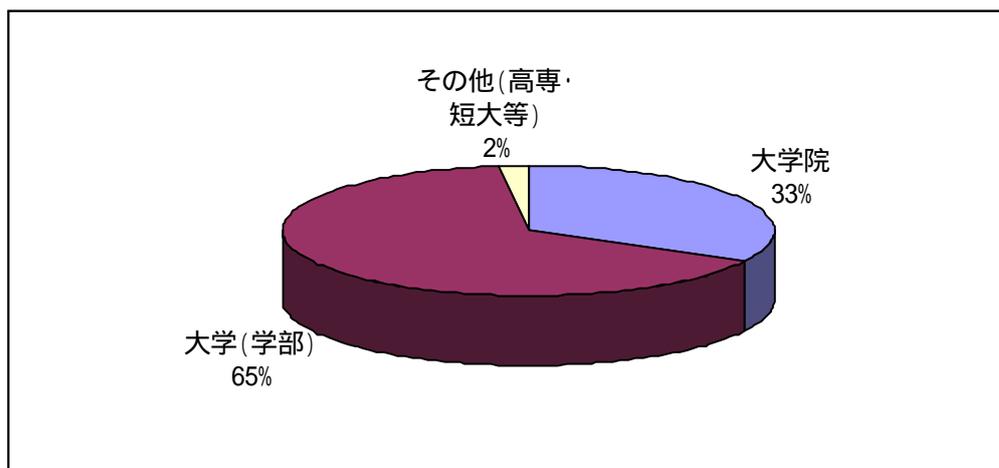
ブース番号	社名
タ 43	東京防災設備
25	東芝
9	東芝電力検査サービス
11	東芝電力放射線テクノサービス
10	東芝プラントシステム
13	東電環境エンジニアリング
16	東電工機
30	東電設計
ナ 23	日本アイソトープ協会
3	日本エヌ・ユー・エス (JANUS)
45	日本原子力研究開発機構
2	日本原子力発電
24	日本原燃
19	日本メジフィジックス
ハ 20	発電設備技術検査協会
37	BWR運転訓練センター
41	日立製作所
4	日立プラントテクノロジ
マ 17	三菱原子燃料
42	三菱電機
18	三菱マテリアル
ワ 31	若狭湾エネルギー研究センター

参加学生のデータ

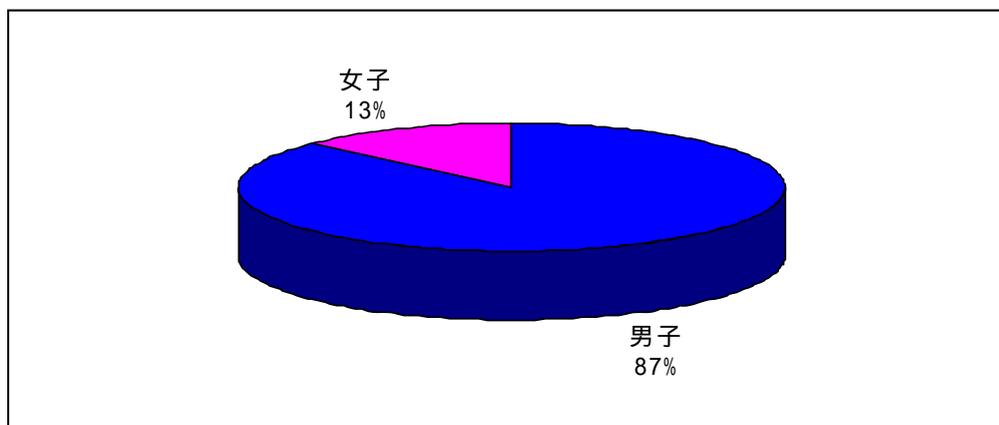
参加学生の学科別構成比



参加学生の学校種別構成比



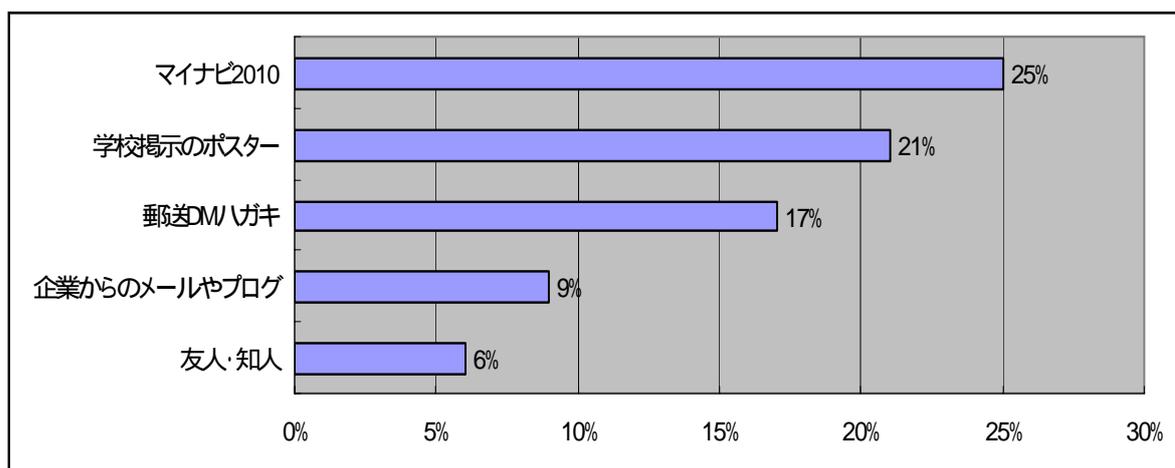
参加学生男女比



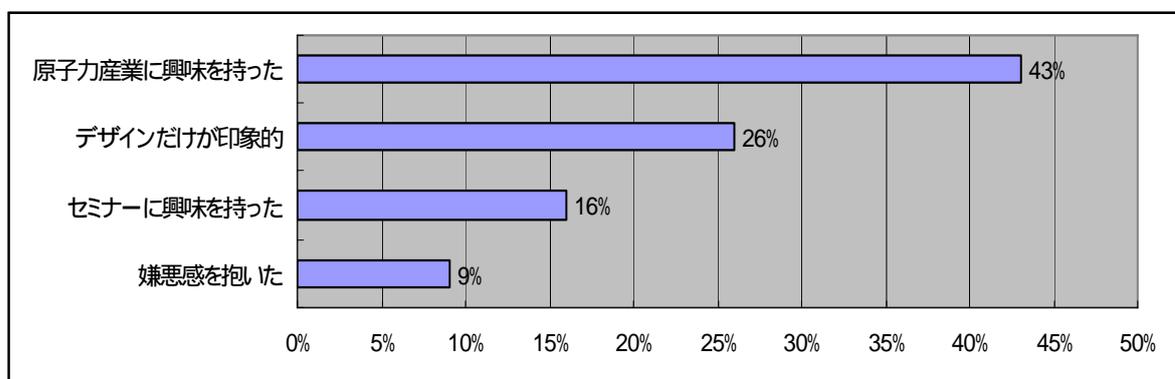
参加学生へのアンケート調査結果

原子力産業セミナーの開催を何で知りましたか？（複数回答可）

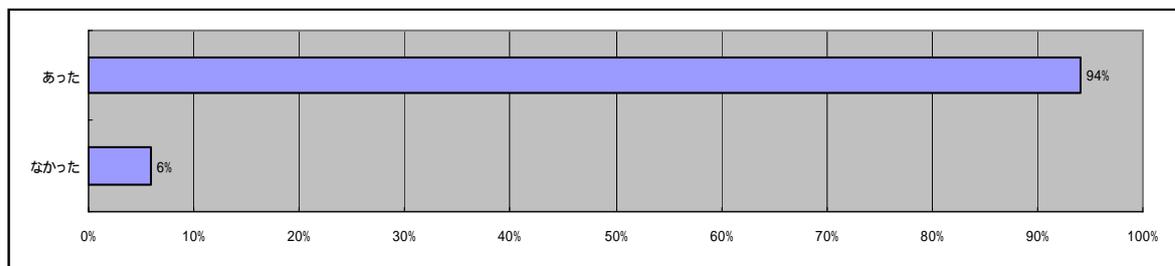
< 回答者数 179 名/回答件数 322 件 >



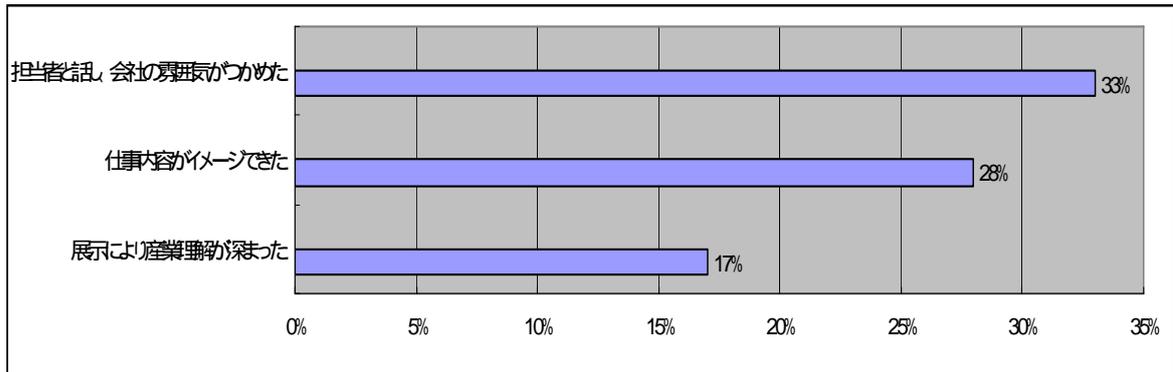
ポスターデザインを見てどのような印象をお持ちになりましたか？ < 回答者数 219 名 >



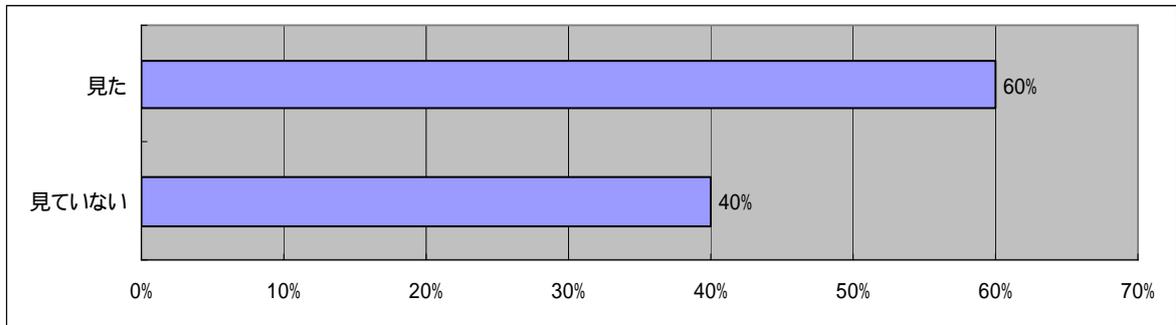
説明を受けた中で、新たに興味を持った企業はありましたか？ < 回答者数 178 名 >



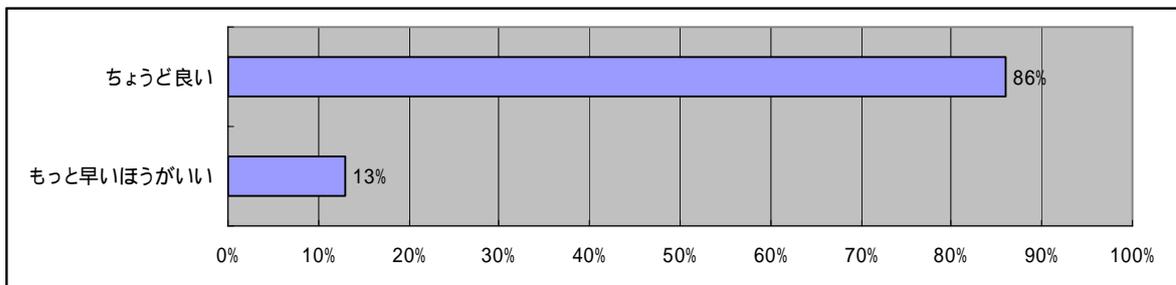
役に立ったのはどのような点ですか？（複数回答可）＜回答者数 186 名/回答件数 364 件＞



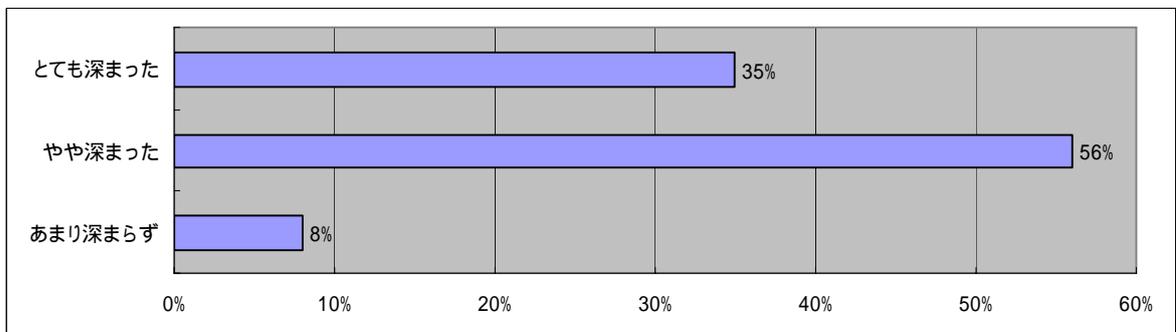
マイナビ2010「原子力産業特集」は見ましたか？＜回答者数 221 名＞



セミナー開催時期はいかがですか？＜回答者数 223 名＞



セミナーに参加して「原子力産業」への理解は深まりましたか？＜回答者数 176 名＞



新聞掲載：

2008年12月18日

原子力産業新聞

原子力産業 セミナー 参加学生五百名で倍増
参加企業も45社に



参加学生が昨年の約2倍となった
原産協会の原子力産業セミナー

原産協会「業セミナー」が十三日、主催の合同、東京・新宿エルタワーで企業説明会 開かれ、約五百名の大学生が訪れた。

昨今の少子高齢化、熟練技術者の大量退職期突入などから、次世代の原子力研究開発利用を支える人材の維持が喫緊の課題となっている。これを踏まえ、原産協会では、大学生を対象に原子力産業の存在感と職場としての魅力をアピールすることを目的に、同セミナーを一昨年から開催している。

今回、参加した企業は、年度当初からの地道な宣伝活動が功を奏し、原子力の研究、開発、利用を支える電力、メーカー他、前回出展の三十二社を上回る計四十五社に上るなど、原産協会の人的基盤強化活動として、着実に周知されつつあるようだ。会場内では、各社ごとに割り当てられたブースから、若手技術者たちが、パンフレット、自社開発による製品、プラントの模型などを利用しながら、学生たちに事業内容を説明、一方、参加学生も、大々的な具体的なアプローチを図る学生もいたようだ。

のポスター配布の他、就職情報誌発行・イベント開催で実績のある毎日コミュニケーション社ホームページに特設ページを設けたことなどから、前回は大幅に上回る集まり具合だった。国際機関への就職ガイダンスコーナー、学生と採用担当者が個別に相談できるラウンジも設けられたが、このところの雇用状況悪化の兆しを反映して、応募に向けた具体的なアプローチを

以上